

1 現状と課題

■自施設の現状

- ・病院理念 地域に信頼される病院、患者に愛される病院、誇りと責任を持てる病院
- ・病床数282床（一般200床、ICU 8床、地域包括ケア病棟60床、緩和ケア病棟14床）、7:1入院基本料、平均在院日数12.1日（地域包括ケア病棟19.5日）、病床稼働率77.8%
- ・医師 58人、看護職員 307人、専門職 95人、事務職員 52人
- ・当院は開院以来、救急医療と急性期医療を中心に活動し、2011年に地域医療支援病院に認定された。その年の東日本大震災の時には、3月31日～5月1日の間に医療支援チームを8チーム延べ33名の職員を宮城県気仙沼市へ派遣した。
当院の救急医療は重傷外傷を除く3次救急も受け入れており、脳卒中や心筋梗塞、消化管穿孔や切断指などの緊急手術も積極的に行っている。CPAの救急搬送は年間100件を超えています。
また、当院は開院当時から退院後の患者さんの往診を続けています。
- ・他機関との連携については、地域連携室が窓口になり200件を超える開業医と登録医契約して、日々紹介患者の受入やMRIやCT等のオプション検査の受入と情報提供に努めている。

■自施設の課題

県央地区の急性心筋梗塞の自己完結率72.19%、くも膜下出血は60.21%、二次救急は79.47%、脳出血は64.77%と三次救急と特定機能病院が無い地域としては比較的健闘している。

しかし、がん治療については、胃がん、大腸がんが66%、肺がん、肝がん、乳がんは53～58%、化学療法は49%、放射線治療は27%で、化学療法や放射線治療は近隣の大学病への流出超過となっている。

当院としては、2.5次の救急医療を継続しながら、がんの手術、化学療法、放射線治療、緩和ケアの体制を整えており、さらになんがん治療に力を入れていく。

2 今後の方針

■地域において今後担うべき役割

- ・地域におけるがん治療の中心的病院となる（手術、放射線治療、化学療法、緩和ケア病棟）
- ・重傷外傷を除く3次救急医療と地域医療支援病院として、地域医療機関のバックアップ病院となる。

■今後持つべき病床機能

- ・回復期機能を提供する病棟の整備

■その他見直すべき点

- ・特になし